

令和 4 (2022) 年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	革新的大気成分広域観測による気候変動及び炭素・酸素循環の包括的評価
研究代表者	石戸谷 重之 (国立研究開発法人産業技術総合研究所・エネルギー・環境領域・研究グループ長) ※令和 4 (2022) 年 6 月末現在
研究期間	令和 4 (2022) 年度～令和 8 (2026) 年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】 本研究は、応募者が開発した計測技術を用いた大気主成分(酸素とアルゴン)、酸素の同位体比及び極微量成分である硫化カルボニルの濃度の高精度計測を全球・三次元に展開して実施する観測と、モデル計算を合わせた総合的解析を行うことで、温暖化の実態解明と影響評価に不可欠な知見を得ることを目的としている。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】 応募者が開発した世界有数の高精度計測手法と、本研究の研究組織ならではの全球規模の観測ネットワークを用い、最先端のモデル計算と合わせた総合解析を行うことで、温暖化の実態解明と影響評価に必須である海洋貯熱量・海洋生物活動・光合成量の評価が可能になることが期待される。本研究は気候変動予測に欠かせない重要な研究である。</p>